

肉用牛経営者リーダー集団「まにわ和牛研究会」

事例の内容

真庭郡の肉用牛経営者のリーダー集団として、毎年多くの先駆的事業に取り組んでいる、「まにわ和牛研究会」の活動について紹介します。

1 会員数、飼養頭数が年々増加している

まにわ和牛研究会は、真庭郡内の大型和牛繁殖農家を中心に、平成5年度に結成されました。

現在の会員数は19戸で、会員が飼養している繁殖雌牛頭数は307頭です。平成5年度の発足当時(会員数9名、飼養頭数151頭)と比べ、ともに倍以上に増加しており、郡内の肉用牛農家、飼養頭数がともに減少する中で、年々大きな比率を占めるようになってきています。ちなみに、飼養頭数では郡内の30%以上を占めています(図1)。

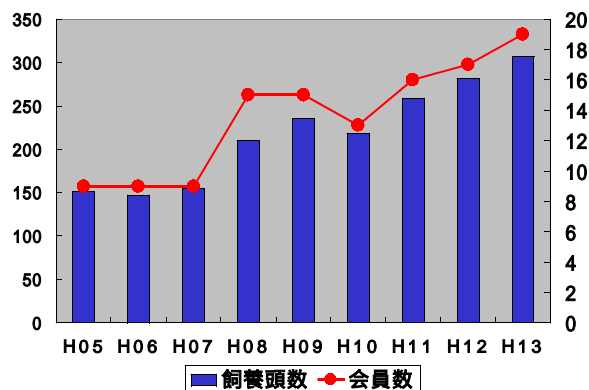


図1 まにわ和牛研究会会員数、飼養頭数の推移

2 活発な活動で地域をリード

このように、年々会員数、飼養頭数が拡大している理由は、以下に説明する活発な活動内容が、会の魅力を作り出している点にあります。

(1) 除角技術研修会の開催

平成11年度から、多頭飼育に必要な除角技術の普及を推進しています。毎年、冬場に、共同作業による効率的な除角と、除角技術の向上を目的とした除角技術研修会を開催しており、これまでに会員の6割弱、繁殖牛頭数の2/3で除角を実施しました(写真1)。

油圧式除角器を利用することにより、短時間での除角を実現し、繁殖牛へのストレスの軽減を図っています。



写真1 除角技術研修会の様子

(2) 「まにわ和牛受精卵バンク」の設立

平成12年度から、郡内町村間の優秀なドナー(受精卵供卵牛)やレシピエント(受精卵受卵牛)数の、アンバランスの是正を目的として、会員内の優良受精卵流通交換組織「まにわ和牛受精卵バンク」を設立し、運営を開始しました。

これは、会員が余った我家の受精卵を「バンク」に登録し、まにわ肉用牛研究会の事務局(真庭農業改良普及センター)が他会員への情報提供を書面で行うもので、流通交換は会員同士が直接行います。「バンク」の設立により、優秀な受精卵が、町村を越えて円滑に流通されています。

(3)肉用牛情報誌の発行

平成11年度から、普及センターと共同して肉用牛情報誌の発行を始めました。情報誌の発行は年5回程度実施し、子牛市場の動向、技術情報、会員の経営紹介を行っています(図2)。

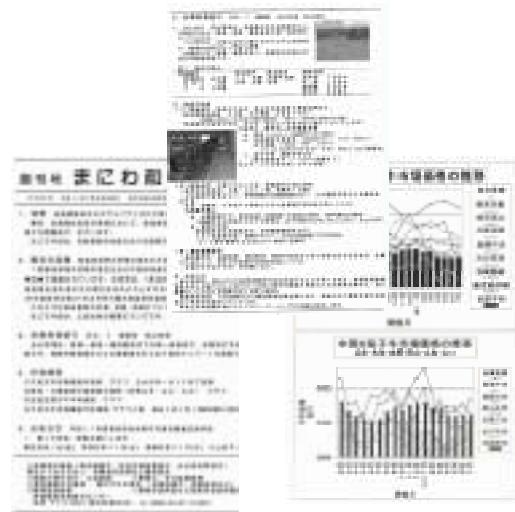


図2 まにわ和牛研究会肉用牛情報誌

(4)夫婦共同参加研修会の開催

平成9年度から、夫婦共同参加の研修会を定番事業として実施しています。この研修会は、肉用牛農家の重要な経営パートナーである女性の、大型肉用牛農家としての経営意識の向上と技術レベルの平準化に大きく役立っています。

(5)次々に新しい活動を展開

今まで紹介した活動の他に、会員同士の助け合いとして、セリ市場多頭出荷会員のための互助ヘルパー事業や資材等の共同購入の研究も行なっています。

また、平成13年度には、育種価利用現地研修会を実施し、育種価の高い繁殖牛や子牛を集合させて、高育種価の繁殖雌牛の飼養管理や受精卵利用法について研修しました(写真2)。

さらに、現在は転作田や荒廃農地の有効活用推進を目的とした簡易放牧技術(ソーラー電牧利用)の実証に取り組んでいます。



写真2 育種価利用現地研修会

参考にする場合の留意点

1 収入に直結する事業内容が、活動の魅力となる

経営者の高齢化や長期間の子牛価格の低迷により、和牛繁殖経営の元気がない中で、まにわ和牛研究会は活発な活動を行い、年々会員数も増加させている。

研究会の活力の源は、会員自身の提案による、収入向上に直結した事業内容にあると思われる。研究会活動の中で、会員がそれぞれの経営内で持つ問題を出し合い、共同で解決を図るという姿勢が、今のまにわ和牛研究会の姿を象徴している。



真庭農業改良普及センター 川口 泰治